

「同年齢」保育・教育を ちょっと疑ってみる

異年齢保育・教育 & 多世代交流の可能性

なぜ、私たちは「同じ年齢で遊ぶ・学ぶ」ことを当然のように考えてしまうのでしょうか？それは、思いこみかもしれません。異年齢で遊ぶ・学ぶことは十分可能かもしれません。限りなくユニークな発達心理学研究者お二人をお迎えして、異年齢の可能性を探るとともに、異年齢だからこそ見えてくる「発達」「インクルーシブ」概念を一緒に検討します。

[日時] ▶▶ 10月13日(金) 18:00~20:30

(20時30分以降、引き続き懇親会を行います)

参加費無料

申込不要

[会場] ▶▶ 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所
大会議室 (鶴甲第2キャンパス：神戸市灘区鶴甲3-11)

●話題提供1● 川田 学 (北海道大学)

異年齢・多世代の実践から発達を考える

発達研究は、連続的な時間的現象である人間の育ちにある”線引き”をするが、その線引きは、しばしば社会的に用意された枠組みと調和している。

現代では、子どもは同年齢かつ同質性の高い集団で自己形成し、研究はその姿を自明視し、子どもの姿と理解が再生産される。そうではない舞台上、つまり、異年齢や多世代の実践において発達とは何かを再考してみたい。まだまだ試論の手前くらいだけれども。

●話題提供2● 伊藤 崇 (北海道大学)

児童期の発達と異年齢教育

異学年で構成されたグループによる創造活動をカリキュラムの柱にすえた国立A小学校の実践を対象として、ウェアラブルセンサを用いたコミュニケーションの測定を実施した。同学年と異学年とで児童の実態がどのように異なるのかという点を中心に話したい。

20時30分から懇親会 (兼ディスカッション)
(費用1人1500円程度/その場で受付いたします)



お問い合わせ

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所

赤木和重 研究室

akagi@pearl.kobe-u.ac.jp